



今だから体験して、
今だから学ぶ。
そしてそれを、伝える

特集－うわじま圏域子ども観光大使－

普段の生活ではあまり体験する機会がない、地元ならではの楽しみ方―。
あたりまえのことだけれど、実はそれはここでしかできない貴重な体験。
宇和島、鬼北、松野の宇和島圏域の小学生たちがその魅力を伝えます。



楽しさ
いっぱい！



海にも！

ここでしかできない 僕の、私の「楽しみ方」

真珠玉出しやミカン狩り。
ここに住んでいる私たちだからこそできることが
身近にあります。
こんな貴重な体験、楽しまなくては損！
知れば知るほど、地元が大好きになります。





うわじま圏域子ども観光大使（第6期生講座）

月	内 容
4	田植えをしよう
5	魚の養殖について学ぼう
6	泉貨紙を使って渋染めしよう（鬼北町） じゃこ天作りをしよう
7	マダイの稚魚を放流しよう キャニオニングを体験しよう（松野町）
8	真珠玉出しとアクセサリ作りをしよう 俳句作りをしよう 稲刈りをしよう マダイの養殖を丸ごと体験しよう マダイの新商品を開発しよう
10	松野黄金イモを収穫・調理しよう（松野町） 柚子狩りをしよう（鬼北町）
11	ミカン狩りをしよう
12	鯛めしを作ろう
1	ブラッドオレンジを収穫しよう



活動の詳細は、「うわじま圏域子ども観光大使」ホームページでも紹介しています。

山にも！



うわじま圏域子ども観光大使の活動は、平成26年に始まりました。第1期生は市内の小学4～6年生を対象に募集。それから少しずつ人数を増やし、昨年から鬼北町、松野町も含めた小学3～6年生を対象に活動しています。

子どもたちは、じゃこ天作りやマダイ養殖、ミカン狩りなど、地元ならではの体験ができる講座を一定数受講することで子ども観光大使として認定されます。

この活動は、ただ体験するだけが目的ではありません。地元の魅力を学ぶことはもちろん、その魅力を全国に発信していくことが求められています。毎年開催される「全国連合子ども観光大使大会」では、宇和島鯛めしやマダイ養殖のほかにも、平成30年7月豪雨からの復興に取り組むミカン農家の様子を紹介するなど、地元の誇りを全国に向けて発信しています。

地元だからできること

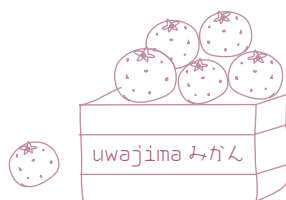


楽しいから心に残り、
誰かに伝えたくなる。

勉強して記憶するのではなく、
自ら体験して楽しむ。
その思い出は、いつまでも心に残り、
つい誰かに話したくなります。



三カン狩り体験に密着！





11月の活動は「ミカン狩り」。NPO法人柑橘ソムリエ愛媛の代表二宮さん（白浜地区）の園地でミカン狩りを体験しました。子どもたちは、おいしいミカンの特徴を学んでミカン狩りに出発。ただミカン狩りをして楽しむだけではなく、特徴を学ぶことで楽しみは倍増します。

ただ体験するだけじゃなく、
学びがあるからおもしろい

■おいしいみかんの見分け方

①小ぶりの大きさ

凝縮され味がしっかりしています。

②色味が濃い

日光をよく浴び、黄色の色味が濃いものが良い。

※ミカン農家は「紅がのる」などと表現します。

③ヘタが細い

果実と枝をつなぐヘタが細いものほど良い。

④皮の表面がきめ細かい

皮の表面がなめらかで、油胞が細かいほどおいしい。



皆さんは、おいしいミカンの見分け方を知っていますか？
愛媛ミカン発祥の地と言われる宇和島の人でも、知らない人も多いのではないのでしょうか。うわじま園域子ども観光大使の活動には、地元の産業などを体験するだけではなく、地元の人であれば知っておいてほしい知識などを学ぶ、しっかりとした「学び」があります。ただ仕事を体験するだけでは、おもしろさに欠けてしまいます。おいしいミカンの見分け方を農家から直接学ぶ。そして、その知識を基に実際にミカンを選び味見をしてみる。自分で考えて体験するからこそ楽しさも増え、その分に残ります。

今回の活動では、教わった見分け

方を参考にして1つひとつのミカンをじっくりと観察し選びました。その後、糖度計で糖度を測定。「こんな機械で甘さがわかるんだ」と、子どもたちは興味津々。14度、13度。実際にはおいしいミカンを選んだ子どもたちもいましたが、中には酸っぱいミカンを選んだ子どもも。それも含めて良い経験となりました。

楽しかったことは、自宅に帰って家族に話したいし、友達にも話したくなります。そうして、どんどん地元の魅力が伝わってほしいと思います。



保護者スタッフの皆さん。10人以上が交代で、準備や片付けなどの運営や安全面でのサポートなどを行い、活動には欠かせない存在です。

大人も夢中になる、 これが宇和島

付き添いで参加したはずの大人が、夢中になり楽しんでしまう。そんな魅力が「ここ」にある。



一緒に参加した保護者も体験



地元の皆さんの協力により、魅力的で楽しい体験が充実



生の現場を知ってほしい

ミカンのことって、多くの品種とか、味の特徴とか、地元の人でも意外と説明できなかったりすることが多くあります。ミカンひとつとっても奥深く、たくさんのお楽しみがあります。

うわじま圏域子ども観光大使の活動には、昨年からの協力しています。観光農園に家族で訪れるのも楽しい思い出です。しかし、ミカン農家が作業している実際の現場は急な斜面であり、ミカン1つ採るにも苦労するところがいくつもあります。真珠や魚の養殖など、ほかの産業でもそれは同じです。この活動は、そういった生の現場を地元の子どもたちが体験できるところに魅力を感じています。子どもたちには、活動を通して体験したことや得た知識を広めてほしいです。今後のうわじま圏域こども観光大使の活躍に期待しています。



【NPO法人柑橘ソムリエ
愛媛 二宮 さん】



新しい発見がある。
興味ないことにも興味を持ったり、
子どもも大人も成長する。

子どもたちに地元を誇りに思ってもらいたい。そういった思いで始まったこの活動ですが、実際の活動では子どもはもちろん、保護者スタッフや体験に協力してくれた地元の人も一緒に楽しんでくれた姿が印象的です。それだけ、地元を好きな人が多いということです。

見たり聞いたりする中で、地元の魅力を理解していると思っている人は多いかもしれません。でも、体験まではしたことがないという人もたくさんいるのではないのでしょうか。いざ体験してみると、知っているようで知らなかった新しい発見があったりします。ここでは、子どもと一緒に頑張って大人もいろいろなことを学びます。

魅力的な素材があふれている地元。普段は何気なく過ごしているけれど私たち大人も今以上に地元を知り、子どもたちに負けないように毎日学んでいかなければいけません。



未来への種まき

「立派な教育をすればするほど子どもたちは外に出て帰ってこなくなる」。以前、尊敬する先生から聞いた話に衝撃を受けました。進学を機に地元を離れ、進学先の地で就職。まさに宇和島のことだと思ったからです。

宇和島を元気あるまちにして、子どもたちが将来宇和島に帰ってきたり、何らかの形で宇和島に関わったりできる環境にしたい。その種まきとして始めたのがこの活動です。

14人ではじめた第1期生。毎年続けるうちに周りからの関心も高まり、第6期生は49分で定員に達しました。今後も、宇和島の魅力を体験できる講座を地元の大人や高校生の皆さんの力を借りてどんどん創っていきます。そして、活気のあふれる宇和島の将来を担う子どもたちを育てていきたいと思っています。



【うわじま圏域子ども観光大使実行委員長 信藤さん】